

18世紀末、頂点に立ち転落した風雲児 バリー・リンドンの一代記

クラシック・シネマ

『バリー・リンドン』

巨匠スタンリー・キューブリック作品でありながら、過小評価されているのが本作。ロウソクの灯だけで撮影出来るレンズをNASAから借り受けて、作られた映像は往時の世界を現代に再現。一度目よりも二度目の方が面白くなる傑作。

悪党には死を! 西部開拓時代、“後家作り”の 悪名を受けた鬼保安官がいた!

クラシック・シネマ

『追跡者』

非情な保安官による無慈悲な法の執行を通して、アメリカの正義の本質を問うウルトラハードな西部劇。監督は『狼よさらば』で知られるイギリス人マイケル・ウィナー。テーマが明確にされる終幕の後味の悪さは孫子の代まで語り草!

ビリー・ザ・キッドとパット・ギャレット。 時代に殉じた男たちへの挽歌

クラシック・シネマ

『ビリー・ザ・キッド/21才の生涯』

伝説の映画監督サム・ペキンパーが史上名高き無法者ビリー・ザ・キッドの最後の日々を通して、かつての西部とそこに生きた男たちに哀切な挽歌を奏でた逸品。出演を兼ねたボブ・ディランによる音楽は“男のセンチメンタリズム”を静かに謳う。

西部開拓時代末期、勇名を馳せた 孤高の男、トム・ホーン

クラシック・シネマ

『トム・ホーン』

スティーブ・マックィーン晩年の主演作であり、マックィーンファンは涙無くしては観られない一作。この時、すでに癌に冒されていたマックィーンは、その全身で「男が男であった西部開拓時代の終焉」という作品のテーマを見事に表現。泣けます。

妻と子を奪った奴らを追って、 男はひとりの軍隊になった!

クラシック・シネマ

『アウトロー』

クリント・イーストウッドが好きな自作として五指に数える秀作。7つの拳銃を操るイーストウッドの鬼人のごとき戦いを描く一方で、人間の絆というヒューマニクなテーマもしっかりと描写。晩秋の西部の美しい風景も見もの。